



菊川市の魅力を外へとつなぐ挑戦

松永 晴香（みどり 21）

動画は
こちらから



菊川市において、現在進めている事業承継や人材確保の支援に加え、市内事業者が外へ向けて挑戦しやすい環境を整えることは、事業者の成長支援を進めることになり、結果として菊川市の魅力発信、来訪促進、関係人口の拡大、ひいては地域経済の活性化や税収確保にもつながる可能性がある。市内に店舗や事業所を有する事業者が、市外や県外のイベント、物産展、催事等に出席する際の支援について、個店の販路拡大にとどまらず、菊川市のポテンシャルを引き出し、魅力発信や地域経済の活性化につながる施策として検討できないか質問した。



住みたいまちにつながる将来性や可能性を想定している。

Q 菊川市の事業者の技術力や商品力、発信力、もったいいものを活かして、外へとそれを販売して、外へという挑戦する力もその一つではないかと考えるが、市の認識を伺う。

A 市民の力というのもポテンシャルではないかと考えている。

Q 本市において、市内事業者が市外や県外のイベント、物産展、催事等へ出席する際の支援制度を検討できないか伺う。

A 全国にはお金をかけない好事例があると思うので、情報収集をしていく。



公共施設の電気使用量削減

西下 敦基（市民ネット）

動画は
こちらから



Q リースを活用したLED化事業について、サービス事業者の資料では、電気使用量削減率は約64%から78%、投資回収は約4年から9年と試算がされている。CO2削減も進むこととなり、本市の導入の検討は。

A 現在工事を進めている市役所本庁舎や、既に工事が完了した消防本部などの施設は、導入方法や活用可能な財源を比較検討した結果、照明設備を購入する自己保有方式によるものとしている。これまで規模の大きな施設のLED化を進めてきたが、未整備の箇所が残されており、これらの施設も補助金など有利な財源の活用と併せて導入方法を検討し、財政負担の平準化を図りながらLED化の早期完了を目指していく。

Q 空調の自然冷媒ガスへの交換について、幅広い空調システムに適応がされ、費用については電気料金の削減分のみで導入費用を賄い、追加の負担がなく導入することも可能となっているが、導入の検討は。



A 既存の空調機器に指定外の冷媒ガスを充填する冷媒交換については、安全性の確保や市有財産の適正管理という観点から、現時点において本市で導入することは考えていない。今後、技術の向上などで、自然冷媒ガスの利用可能な機器が普及した場合には、空調機器の更新を行う際などに、費用対効果と併せて導入の可能性を検討し、既存機器よりもエネルギー効率が高くなった空調を導入するなど、脱炭素化の取組を推進していく。

他に「計画策定業務の見直し」について質問しました。